

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-298550

(43)公開日 平成11年(1999)10月29日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>  
H 04 L 29/06  
12/437  
29/14  
H 04 M 3/00

識別記号

F I  
H 04 L 13/00 3 0 5 C  
H 04 M 3/00 D  
H 04 L 11/00 3 3 1  
13/00 3 1 1

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平10-97409

(22)出願日 平成10年(1998)4月9日

(71)出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(71)出願人 000221328

東芝通信システムエンジニアリング株式会社

東京都日野市旭が丘3丁目1番地の1

(72)発明者 宮下 貴志

東京都日野市旭が丘3丁目1番地の1 東芝通信システムエンジニアリング株式会社  
内

(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦 (外6名)

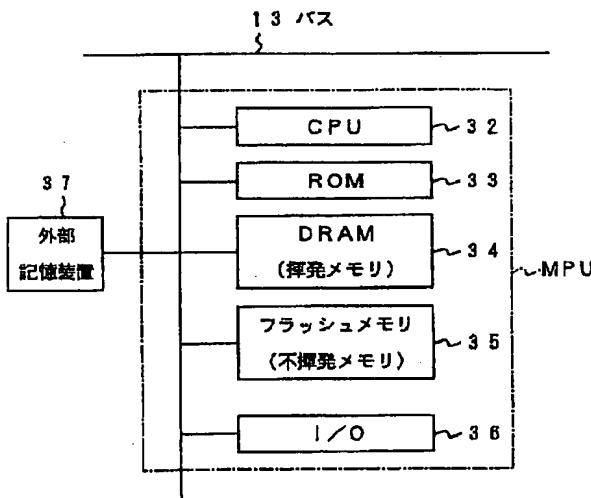
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 通信システム及び通信装置

(57)【要約】

【課題】 運用を停止することなく、かつ安全にプログラムをバージョンアップし、オンラインでプログラムを更新できるようにする。

【解決手段】 通信装置のMPUにおいて、フラッシュメモリ35に運用プログラムを格納しておく。装置立ち上げ時には、ROM33に格納されたロードプログラムによりDRAM34にフラッシュメモリ35から運用プログラムをダウンロードした後、処理をDRAM34内のプログラムに移す。更新時には、DRAM34からROM33に処理を移し、ROM33に格納されたロードプログラムにより更新プログラムをDRAM34上にダウンロードした後、処理をDRAM34に戻す。一定時間以上の動作を確認した後、DRAM34上のプログラムをフラッシュメモリ35に書き込む。一定時間内に不具合が起こると、自らリスタートルーチンに処理を移し、装置の立ち上げからスタートする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】網管理装置と、複数の通信装置と、前記複数の通信装置を相互に接続する第1の通信回線と、前記複数の通信装置の少なくともいずれか一つと前記網管理装置とを接続する第2の通信回線とで構成される通信システムにおいて、

前記網管理装置は、前記複数の通信装置それぞれに搭載されるプログラムを把握し、前記第2の通信回線に接続される通信回線を通じて必要に応じて任意の通信装置を指定し更新プログラムを送出するプログラム送出手段を備え、

前記通信装置は、前記通信回線と接続される回線インターフェース手段と、前記回線インターフェース手段を含む複数の被制御回路をプログラム制御する複数の制御手段と、外部記憶装置と、少なくとも前記複数の制御手段及び外部記憶装置を相互に繋ぐ伝送手段とを備え、

前記通信装置の複数の制御手段は、それぞれ内部処理を制御するプロセッサと、このプロセッサにより管理される読み出し専用メモリ、書き換え可能な不揮発メモリ及び揮発メモリを備え、前記不揮発メモリには被制御回路の運用プログラムが格納され、前記読み出し専用メモリには前記プロセッサからの指令を受けて前記不揮発メモリから前記揮発メモリへ運用プログラムをロードするプログラム、及び網管理装置から送られてくる更新プログラムを前記揮発メモリへロードするプログラムが格納され、

前記プロセッサは前記揮発メモリへのプログラムロード完了後、揮発メモリにロードされたプログラムに処理を移行させ、更新プログラムを新たに格納した場合は、一定時間運用した後、不具合発生の有無を判断し、不具合がなかった場合には前記揮発メモリに格納された更新プログラムを前記不揮発メモリに書き込み、不具合が発生した場合には前記不揮発メモリから運用プログラムをリロードすることを特徴とする通信システム。

【請求項2】さらに、前記複数の制御手段には、それぞれ前記不揮発メモリに書き込まれた更新プログラムを前記外部記憶装置にバックアップする手段を備えることを特徴とする請求項1記載の通信システム。

【請求項3】前記不揮発メモリにはフラッシュメモリを用いることを特徴とする請求項1記載の通信システム。

【請求項4】通信回線と接続される回線インターフェース手段と、前記回線インターフェース手段を含む複数の被制御回路をプログラム制御する複数の制御手段と、外部記憶装置と、少なくとも前記複数の制御手段及び外部記憶装置を相互に繋ぐ伝送手段とを備え、

前記複数の制御手段は、それぞれ内部処理を制御するプロセッサと、このプロセッサにより管理される読み出し専用メモリ、書き換え可能な不揮発メモリ及び揮発メモリを備え、前記不揮発メモリには被制御回路の運用プログラムが格納され、前記読み出し専用メモリには前記プロ

ロセッサからの指令を受けて前記不揮発メモリから前記揮発メモリへ運用プログラムをロードするプログラム、及び前記通信回線を通じて送られてくる更新プログラムを前記揮発メモリへロードするプログラムが格納され、前記プロセッサは前記揮発メモリへのプログラムロード完了後、揮発メモリにロードされたプログラムに処理を移行させ、更新プログラムを新たに格納した場合は、一定時間運用した後、不具合発生の有無を判断し、不具合がなかった場合には前記揮発メモリに格納された更新プログラムを前記不揮発メモリに書き込み、不具合が発生した場合には前記不揮発メモリから運用プログラムをリロードすることを特徴とする通信装置。

【請求項5】さらに、前記複数の制御手段には、それぞれ前記不揮発メモリに書き込まれた更新プログラムを前記外部記憶装置にバックアップする手段を備えることを特徴とする請求項4記載の通信装置。

【請求項6】前記不揮発メモリにはフラッシュメモリを用いることを特徴とする請求項4記載の通信装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、1台以上の通信装置を1台以上の網管理装置により管理する通信システム及びこのシステムに使用される通信装置に係り、特に通信装置内のソフトウェアプログラム（以下、プログラムと称する）のバージョンアップを可能とし、そのプログラムをオンラインで更新する技術に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来より、この種の通信システムにあっては、通信プロトコル等の制御を行うプログラムを格納するメモリ装置が各通信装置に組み込まれている。このメモリ装置には不揮発メモリが使用されている。しかしながら、不揮発メモリでは、運用を停止することなくプログラムを入れ替えることが不可能であり、プログラムのバージョンアップは通信装置それが独自に行わなければならぬ。また、各通信装置に対し、遠隔地（網管理装置）からオンラインでプログラムを一括して入れ替えることも不可能である。

【0003】このような問題を解決する手段として、従来では通信装置それぞれに外部記憶装置を付加するようしている。しかしながら、このような手段では、ソフトウェアを入れ替えた後、古いソフトウェアが消えてしまう。新しいソフトウェアは実機での実績がなく、システムの安定性を保証することができない。このため、もし新しいソフトウェアにバグ等があって不具合が生じた場合、前のソフトウェアに戻せなくなってしまう。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記のように、従来の通信システムでは、プログラムが不揮発メモリに格納されているために、運用を停止することなくプログラムを入れ替えたり、自動的に更新前のプログラムに戻すこと

が不可能であった。

【0005】そこで、本発明は、上記の問題を解決し、運用を停止することなく、かつ安全にプログラムをバージョンアップをすることができ、さらには各通信装置を網管理装置からオンラインでプログラムの更新が可能な通信システムを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するために本発明は、網管理装置と、複数の通信装置と、前記複数の通信装置を相互に接続する第1の通信回線と、前記複数の通信装置の少なくともいずれか一つと前記網管理装置とを接続する第2の通信回線とで構成される通信システムにおいて、前記網管理装置には、前記複数の通信装置それぞれに搭載されるプログラムを把握し、前記第2の通信回線に接続される通信回線を通じて必要に応じて任意の通信装置を指定し更新プログラムを送出するプログラム送出手段を設け、この通信システムに使用される通信装置には、前記通信回線と接続される回線インターフェース手段と、前記回線インターフェース手段を含む複数の被制御回路をプログラム制御する複数の制御手段と、外部記憶装置と、少なくとも前記複数の制御手段及び外部記憶装置を相互に繋ぐ伝送手段とを設け、前記通信装置の複数の制御手段には、それぞれ内部処理を制御するプロセッサと、このプロセッサにより管理される読み出し専用メモリ、書き換え可能な不揮発メモリ及び揮発メモリを設け、前記不揮発メモリには被制御回路の運用プログラムが格納され、前記読み出し専用メモリには前記プロセッサからの指令を受けて前記不揮発メモリから前記揮発メモリへ運用プログラムをロードするプログラム、及び網管理装置から送られてくる更新プログラムを前記揮発メモリへロードするプログラムが格納され、前記プロセッサには前記揮発メモリへのプログラムロード完了後、揮発メモリにロードされたプログラムに処理を移行させ、更新プログラムを新たに格納した場合は、一定時間運用した後、不具合発生の有無を判断し、不具合がなかった場合には前記揮発メモリに格納された更新プログラムを前記不揮発メモリに書き込み、不具合が発生した場合には前記不揮発メモリから運用プログラムをリロードする機能を持たせて構成される。

【0007】すなわち、本発明では、不揮発メモリに被制御回路の運用プログラムを格納しておき、読み出し専用メモリに不揮発メモリから運用プログラムをロードするプログラムを格納しておく。揮発メモリには、装置立ち上げ時に不揮発メモリから運用プログラムをダウンロードし、ダウンロード終了後、処理を不揮発メモリ内のプログラムから揮発メモリ内のプログラムに移す。プログラムの更新時には、揮発メモリから不揮発メモリに処理を移し、網管理装置より新しいプログラムを揮発メモリ上にダウンロードする。ダウンロード終了後、処理を揮発メモリに戻す。

【0008】一定時間以上の動作を確認した後、揮発メモリ上のプログラムを不揮発メモリに書き込む。一定の時間待つことにより、プログラムの信頼性を確認し、安全にプログラムの信頼性を確認し、安全にプログラムを更新することを可能となる。一定時間内にプログラムの不具合により装置がダウンするようになると、自らリスタートルーチンに処理を移し、装置の立ち上げからスタートする。これにより、再度不揮発メモリより揮発メモリへのダウンロードが開始されるため、網管理装置からダウンロードする前のプログラムで動作を続けることが可能となる。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施の形態について詳細に説明する。図1は本発明に係る通信システムの全体構成を示すもので、ここでは1個の網管理装置Aがリング状に光接続された4個の光通信装置B0～B3を管理するものとし、光通信回線B0が代表してLAN回線を通じて網管理装置Aと接続されている。光通信装置B0～B3はそれぞれ隣りの光通信装置と相互に光通信可能となっているが、その光通信経路はサービス系とプロテクション系を備えており、それぞれの系は互いに逆方向に情報を伝送する現用回線と予備回線を備えている。

【0010】図2は光通信装置B0～B3の内部構成を示すもので、11はメインCPU、12はサブCPUであり、これらはバス13に接続されている。また、このバス13にはそれぞれMPU14～18を介してADM（アド・ドロップ・モジュール）20、I/F（入出力インターフェース）21～24に接続されている。

【0011】ここで、I/F21は現用回線からの情報を取り込んでADM20に入力し、I/F22はADM20から出力される情報を取り込んで現用回線に送出する。また、I/F23は予備回線からの情報を取り込んでADM20に入力し、I/F24はADM20から出力される情報を取り込んで予備回線に送出する。

【0012】上記ADM20及びI/F21～24は、それぞれ対応的に設けられた（同一基板上に形成してもよい）MPU14～18によって管理される。これらのMPU14～18は光通信装置の中核を司るメインCPU11またはサブCPU12によって管理される。

【0013】また、光通信装置B0のみは、上記バス13にMPU19を介して網管理装置AからLAN回線を通じて情報を取り込むためのI/F25が接続されている。図3は上記光通信装置に用いられる各MPU14～19の具体的な構成を示すもので、内部バス31にCPU32、ROM33、DRAM（揮発メモリ）34、フラッシュメモリ（不揮発メモリ）35、入出力インターフェース（I/O）36が接続されており、内部バス31の一端がバス13に接続され、他端がADM20等の被制御回路に接続されている。さらに、内部バス31に

は外部記憶装置37が接続されている。

【0014】この際、ROM33にはフラッシュメモリ35及び網管理装置Aからプログラムをダウンロードするプログラムのみを格納しておき、フラッシュメモリ35には（必要に応じて外部記憶装置37にも）そのダウンロードプログラム以外の機能を持つ運用プログラムを書き込んでおく。

【0015】上記構成において、図4及び図5を参照して、以下に各光通信装置におけるプログラムのバージョンアップ、並びに各光通信装置を網管理装置からオンラインで運用プログラムの更新を行うための処理動作について説明する。尚、図4は立ち上げシーケンスを示すフローチャート、図5はその状態遷移を示す状態遷移図である。

【0016】まず、電源が投入され、メインCPU11からMPU14～19へダウンロード指示が与えられると（ST1）、各MPU14～19はROM33に格納されているダウンロードプログラムを実行し、DRAM34にフラッシュメモリ35から運用プログラムをダウンロードして（ST2）、ダウンロード終了後、処理をDRAM34に移し（ST3）、運用を開始して（ST4）、ダウンロード要求の有無を監視する（ST5）。

【0017】この状態で、網管理装置AよりLAN回線、光通信経路を通じて自己宛にHALT（停止）メッセージが送られてくると、メインCPU11から各MPU14～19にダウンロード要求が出される。各MPU14～19はこのダウンロード要求に応じてROM33内のダウンロードプログラムへ処理を移し（ST6）、ダウンロードプログラムを実行して、網管理装置Aに運用プログラムの転送を要求し、転送されてきた運用プログラムをDRAM34にダウンロードする（ST7）。続いて、DRAM34へ処理を移し（ST8）、ダウンロードされた運用プログラムをテスト的に実行する（ST9）。

【0018】一定時間動作させ、不具合発生の有無を監視して、運用プログラムの正常な動作、及び安定性を確認する（ST10）。この確認で結果が良好であれば、網管理装置Aに対してその旨通知する（ST11）。網管理装置Aは指定した光通信装置からのテスト完了通知を受けると、ダウンロード対象の光通信装置に対してバックアップメッセージを送信する。当該光通信装置における各MPU14～19は、そのバックアップメッセージからバックアップ要求の有無を判別する（ST12）。ここでバックアップ要求がなかった場合は、ステップST9のテストモードに戻って運用を続け、バックアップ要求があった場合には、DRAM34上の運用プログラムを内部バスを経由してフラッシュメモリ35に書き込み（ST13）、ステップST4に戻って運用を開始する。

【0019】また、ステップST10において、一定時

間に新しいプログラムの不具合により装置がダウンするようなことが起こると、自らリスタートルーチンに処理を移し、ロードプログラムをリスタートする。これにより、再度フラッシュメモリ35からDRAM34へ運用プログラムのダウンロードが行われ、DRAM35へ処理が移行される。これにより、ダウンロードする前の運用プログラムで動作を続けることが可能となる。

【0020】尚、フラッシュメモリ35にダウンロードされた運用プログラムは必要に応じて外部記憶装置37にもバックアップしておくことが望ましい。以上のような構成によれば、運用を停止することなく、かつ装置に触れることなく網管理装置Aから遠隔操作によりプログラムを入れ替えることができ、プログラムの入れ替え後、プログラムの影響によるシステムダウン等が発生した場合、自動的に元のプログラムに戻して運用を続けることができる。

【0021】したがって、プログラムを更新する際、現地による作業や運用の停止等を必要とせず、プログラムのバージョンアップに容易に対応することができる。

尚、上記の実施形態では、不揮発メモリとしてフラッシュメモリを用いているが、本発明はこれに限定されるものではなく、例えはハードディスクのような記憶媒体でもよいことは勿論のことである。また、上記実施形態のように冗長系を有する場合は、これを利用することで運用を停止することなくプログラムの更新が可能となる。

【0022】また、網管理装置は、1台だけでなく、複数台であっても同様に実施可能である。さらに、外部記憶装置は、MPU毎に個別に設ける必要はなく、バス13上に接続して共有するようにしてもよい。

【0023】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、運用を停止することなく、かつ安全にプログラムをバージョンアップをすることができ、さらには各通信装置を網管理装置からオンラインでプログラムの更新が可能な通信システムを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施形態に係る通信システムの全体構成を示すブロック図。

【図2】 図1の光通信装置の内部構成を示すブロック図。

【図3】 図2のMPU内の具体的な構成を示すブロック図。

【図4】 図2のMPUにおける立ち上げシーケンスを示すフローチャート。

【図5】 図4の立ち上げシーケンスにおけるMPUの状態遷移を示す図。

【符号の説明】

A…網管理装置

B0～B3…光通信装置

11…メインCPU

12…サブCPU

13…バス

14～19…MPU

20…ADM

21～25…I/F

31…内部バス

32…CPU

33…ROM

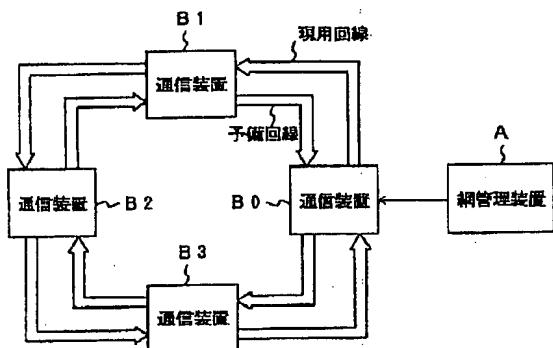
34…DRAM(揮発メモリ)

35…フラッシュメモリ(不揮発メモリ)

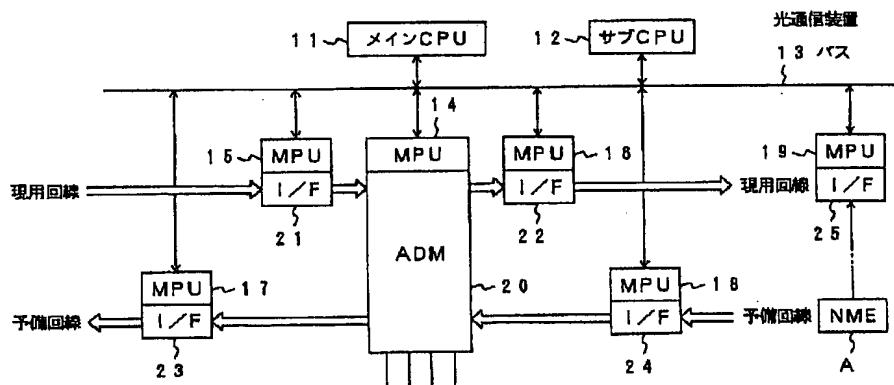
36…入出力インターフェース

37…外部記憶装置

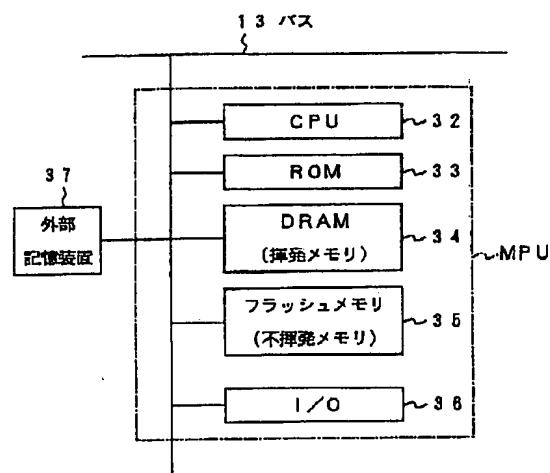
【図1】



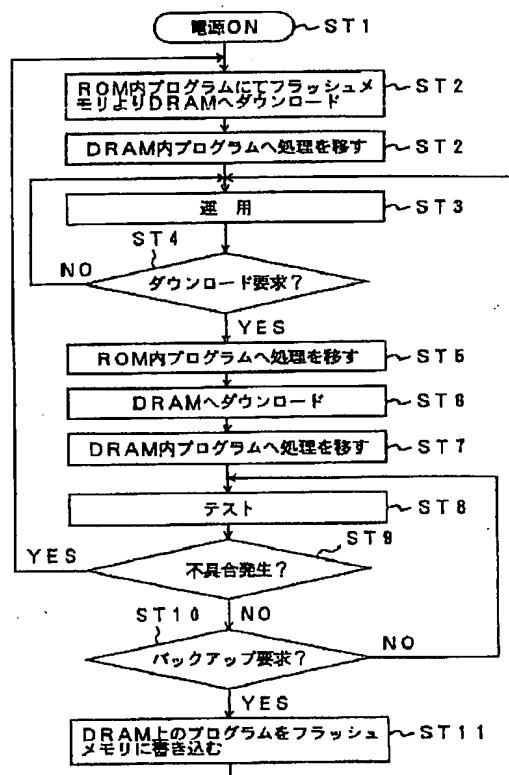
【図2】



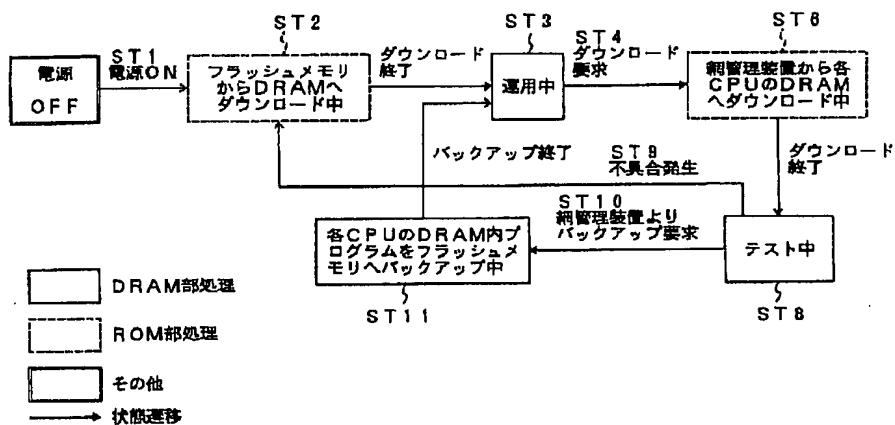
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(72)発明者 小橋 一弘

東京都日野市旭が丘3丁目1番地の1 株  
式会社東芝日野工場内